

## 表紙・目次等

権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	援助と社会の固有要因
発行年	1995
出版者	アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00014278">http://hdl.handle.net/2344/00014278</a>

経済協力シリーズ 177

# 援助と社会の固有要因

佐藤 寛 編

経済協力シリーズ第177号

# 援助と社会の固有要因

佐藤 寛 編

アジア経済研究所

## 援助と社会の固有要因

<執筆略歴(執筆順)> (役職は1995年4月1日現在)

- 佐藤 寛(さとうひろし) アジア経済研究所経済協力調査室  
1957年生まれ 専門は開発社会学・地域研究(イエメン)  
1987-88年 イエメン・アラブ共和国にて、日本大使館専門調査員(技術協力担当)
- 天川 直子(あまかわなおこ) アジア経済研究所海外派遣員(在カンボジア)  
1965年生まれ 専門は地域研究(カンボジア)
- 吉田 正二(よしだまさじ) 国際連合地域開発センター 都市・住宅ユニット研究員  
1959年生まれ 専門は建築・都市保全  
1989-92年 JICA専門家として、イエメン・サナア旧市街保全計画に派遣
- 大橋 正明(おおはしまさあき) 恵泉女学園大学専任講師/シャプラニール常任運営委員  
1953年生まれ 専門は開発学  
1980-82年 シャプラニール=市民による海外協力の会・Bangladesh駐在員  
1990-93年 国際赤十字・赤新月社連盟Bangladesh次席駐在代表
- 源 由理子(みなもとゆりこ) 国際開発コンサルタント  
1957年生まれ 専門は社会開発  
1980-87年 国際協力事業団(JICA)勤務  
1990-95年 (財)国際開発高等教育機構(FASID)研究員  
1995年 国際開発コンサルタント業務に従事
- 清田 明宏(せいたあきひろ) 財団法人結核予防会結核研究所国際協力部医師  
1961年生まれ 専門は公衆衛生, 国際保健, 結核対策  
1990-93年 JICA専門家として、イエメン結核対策プロジェクトに派遣  
1994年- 国際保健機構(WHO) 専門家として東地中海地域事務所(エジプト)に派遣
- 富田祥之亮(とみたしょうのすけ) 農村生活総合研究センター調査役  
1948年生まれ 専門は文化人類学  
1990年よりJICAの委託で農村女性に焦点をあてた農村開発プログラム調査研究に従事  
1993年- OECF WID専門委員
- 栗田 靖之(くりたやすゆき) 国立民族学博物館情報施設管理長・教授  
1939年生まれ 専門は文化人類学, 主な調査地域は日本, 南アジア, アメリカ

経済協力シリーズ第177号

援助と社会の固有要因

佐藤 寛 編

発行

アジア経済研究所 東京都新宿区市谷本村町42 電(3353)4231(代)

1995年10月31日発行© 無断転載禁ず 印刷/製本・三陽社

ISBN4-258-09177-4 C3033

発売

アジア経済出版会 東京都新宿区市谷本村町42 電(3353)1640

定価 3000 円 (本体 2913 円)



定価3000円(本体2913円)

ISBN4-258-09177-4 C3033

# 目 次

はじめに

## 第1章 「社会の固有要因」とはどのようなものか——佐藤 寛… 3

はじめに… 3

第1節 援助プロジェクトと固有要因… 4

第2節 固有要因把握の難しさ… 5

第3節 ハードな固有要因とソフトな固有要因… 6

第4節 「ニーズ」の背景としての固有要因… 9

第5節 技術対応と社会対応… 10

第6節 適正技術と固有要因… 12

第7節 固有要因と社会の変化… 14

### 第I部 固有要因とプロジェクトの関係

## 第2章 援助にあたって考慮すべき固有要因——佐藤 寛… 21

第1節 援助をとりまく概念

——発展観，開発観，被援助観——… 21

1. 発展観… 22

2. 開発観… 22

3. 被援助観… 24

第2節 地域コミュニティの内部状況… 25

1. リーダーシップのありかた… 26

2. 知識と技術の独占状況… 27

3.	固有要因としてのジェンダー…	28
4.	コミュニティの不均一性…	29
5.	相互扶助のシステム…	30
6.	価値と規範の源泉…	31
第3節	コミュニティをとりまく状況…	33
1.	権力と行政のありかた…	33
2.	外部社会へのアクセス…	34
3.	周辺社会との利害対立…	35
第4節	文化にかかわる諸要因…	36
第3章	固有要因としての性別分業	天川直子…41
	はじめに…	41
第1節	性別分業とは…	42
第2節	性別分業と男女の社会的関係…	43
第3節	性別分業のパターン…	45
第4節	性別分業と技術革新…	49
	おわりに…	52
第4章	文化遺産保存援助と固有要因	吉田正二…55
	はじめに…	55
第1節	文化遺産の保存…	57
1.	UNESCOによる文化遺産保存…	57
2.	文化遺産の定義と認識…	59
第2節	文化遺産保存事業の動向…	61
1.	文化遺産保存と開発…	61
2.	スコータイ遺跡…	63
3.	フェズのメディナ…	65
4.	ラ・エントラダ…	68



### 第3節 文化遺産保存をめぐる固有要因…69

1. 建築文化圏とオーセンティシティ…69
2. 文化遺産保存援助を実施する際の課題…71
3. 文化価値観の相違…73

## 第5章 インド・バングラデシュのNGOと両国の固有性

——社会運動か、開発の下請けか——大橋正明…81

### 第1節 NGOと固有性…81

1. NGOの定義と本章の対象…81
2. NGOの発展と固有性…83

### 第2節 NGOの成立と開発NGOの発展…85

1. インドのNGO…85
2. バングラデシュのNGO…88

### 第3節 NGOという呼称…93

### 第4節 外国資金論争…94

### まとめ…97

1. 政府のNGOに対する姿勢…97
2. NGOの経済問題と本質問題…98

## 第II部 社会の固有要因をとらえる試み

## 第6章 固有要因を把握する方法——佐藤 寛…105

### 第1節 援助プロジェクトと固有要因把握の試み…105

### 第2節 固有要因を把握するためのさまざまなアプローチ…107

### 第3節 プロジェクトに直結、技術的対応に主眼があるアプローチ…109

1. モデル・プロジェクト・アプローチ…109
2. 比較の手法…109
3. 技術専門家による固有要因把握…110

第4節 ソフトな固有要因を組織的に把握する、技術対応指向のアプローチ…111

1. 援助実施に必要なソフトな固有要因の収集ガイドライン…111
2. 事前調査に社会分析の専門家を含める…112

第5節 プロジェクト実施を前提としつつ、社会的対応を指向するアプローチ…113

1. ローカル・コンサルタントの活用…113
2. PCMの「参加者分析」…114
3. 参加型のプロジェクト実施手法…115

第6節 固有要因の把握を積み上げてプロジェクトを形成していく指向をもつアプローチ…117

1. 人類学・地域研究的手法…117
2. 簡易農村調査 (RRA) …118

第7節 固有要因把握手法の洗練のために…119

第7章 プロジェクト・サイクル・マネジメント (PCM) 手法と

社会の固有要因—————源 由理子…123

はじめに…123

第1節 PCM手法の概要と特徴…124

1. 参加者分析…125
2. 問題分析…126
3. 目的分析…126
4. プロジェクトの選択…127
5. プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) の作成…127
6. 活動計画書の作成…129

第2節 「参加型」アプローチと固有要因…130

1. コミュニケーションの促進…130
2. 合意形成の過程…132

### 第3節 PCM手法のルールと社会の固有要因…134

1. カードを使ったルール…134
2. 参加者分析の観点…135
3. 問題分析および目的分析の理論…136
4. プロジェクト・アプローチの検討と選択の基準…139
5. プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) に記述されない要因…142

### 第4節 おわりにかえて

——PCM手法をより適切に活用するために——…144

1. 他の調査や手法との連携…144
2. 援助システムの柔軟性…145

## 第8章 参加型アクション・リサーチと社会の固有要因——清田明宏…151

はじめに…151

### 第1節 参加型アクション・リサーチ…153

1. アクション・リサーチ…153
2. 参加型アクション・リサーチ…158

### 第2節 保健医療援助プロジェクトと参加型アクション・リサーチ…162

### 第3節 参加型アクション・リサーチの具体例

——バングラデシュでの結核対策援助——…164

1. バングラデシュの結核対策の状況…164
2. プロジェクト開始の背景…165
3. PARプロジェクトの対象…165
4. PARチーム…166
5. プロジェクトの経過…167
6. 成果…170

### 第4節 PARプロジェクト成功の要因…171

1. 成果の背景…171

2. 参加型アクション・リサーチによって可能となったもの…173
3. 問題点…174

第5節 固有要因の把握と参加型アクション・リサーチ…175

1. 固有要因とは…175
2. 援助プロジェクトと固有要因…176
3. 固有要因把握の方法としての参加型アクション・リサーチ…176

まとめ…177

第9章 固有要因を配慮した村落開発方式の模索

——ジェンダー概念を重視した固有要因把握の方法と

その応用——富田祥之亮…183

はじめに…183

第1節 固有要因を配慮した総合的開発の必要性…185

1. 基本的村落生活の持続と女性…185
2. ジェンダー視点の調査から…186
3. 固有要因を配慮した開発方式の要件…188
4. 調査を重視した村落開発方式…190

第2節 GORDEPにおけるベースライン調査の手法…190

1. ベースライン調査の実際…190
2. 「生活資源カタログ」調査…193
3. 「生活資源カタログ」の整理…195
4. 関連調査手法…196

第3節 固有要因を配慮した村落開発例としてのGORDEP…199

1. GORDEPの概要…199
2. 生活総合調査を主軸においた開発プログラム…202
3. GORDEPの応用…204

おわりにかえて…206

## 第10章 開発における固有要因の問題——栗田靖之…209

## 第1節 開発と教育のアナロジー…209

1. 教育と開発の類似点…209
2. カウンセラー…210
3. ソーシャルケースワーカー…211
4. 国際援助の理論…212

## 第2節 開発と調査…213

1. 調査とマニュアル…213
2. 歴史の違いを認識する…214
3. ブータンの固有要因…216
4. 近代化の挑発にのらないブータン…219

## 第3節 ある国際援助の専門家の事例…221

## 第4節 地域研究と国際協力…223

1. 地域研究者への期待…223
2. 適正技術…224
3. 地域研究者の必要性…226

むすび…227